

第5章 今後の修復作業

第1節 仮組の進行

解体に合わせて仮組を行い各部材の組み合わせや収まりを検討している。仮組場は南と西に2カ所設置したが、作業の進行状況やスペースの関係もあり、順次各部分に分けて仮組を進めた。躯体部の仮組は最も早く終了し、そのままの状態で南仮組場に置いている。上成基壇の仮組は西仮組場で2012年度後半から2013年度前半にかけて行った。新規補充石材の収まりなどを確認後、一旦解体し、石材補修のためのスペースを確保した。

下成基壇は2014年度初めから南仮組場で仮組を開始し、現在も継続中である。



第73図 躯体部の仮組（北東から）



第74図 上成基壇の仮組（北西から）

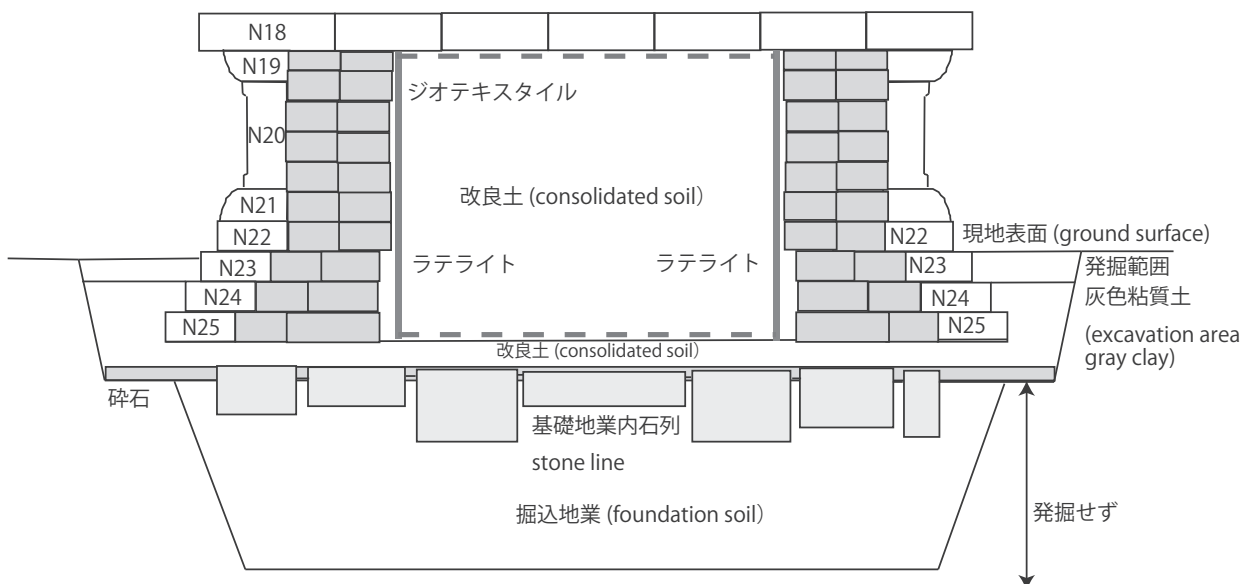


第 75 図 下成基壇の仮組（西から：2014 年 6 月 10 日）

第 2 節 基壇下部の再構築

現在は N25 を解体し基壇内石列の上部が露出している状態で作業を止めている。基壇内石列の原位置での保存と、掘込地業下部を残すことによって当初の地耐力を保持しようとの意向の元に、基壇の発掘はこのレベルで終了することとした。また 2014 年 6 月に現地で開催された国際調整委員会第 23 回技術委員会において、修復状況の進行に関する展示公開の必要性和、下成基壇再構築に当たってのジオテキスタイルの使用が推奨された結果を受け、急遽、(財)地域地盤環境研究所理事岩崎好規先生と大成ジオテック福田光治先生に現地での指導を仰ぎ、下記のような改良土と不織布による下成基壇再構築の方針を決定した。

今後、6 月以降に本格的な再構築を始める予定である。まず掘込地業下部、基壇内石列の上に改良土を用いた版築層を約 10cm 構築する。これにより、基壇内石列の保護と、N25 の安定化を図る。その後、N25 から順次再構築に入り、第 1 工期とする次の雨期、2014 年 9 月までに N22 までの再構築を終了する。この状態で雨期の間は再構築を休止し、改良土の製作を行う。雨期を経過した後、第 2 工期として 2014 年 12 月までに N21 から N18 までを、第 3 工期として N17 から上の再構築を行い、2014 年度末までに、南祠堂の再構築を終了する計画である。



第 76 図 下成基壇再構築模式図